



教育センター・育成センター所報

# GALILEI



ゆきわいそう

## CONTENTS

○今月の巻頭言…………… P 1

★学校支援地域本部事業に思う事

柏崎市教育委員会 委員 増田 恵子

○教育センターだより

★アクセス（教育研究班）…………… P 2

★プロジェクト K（科学技術教育センター）…………… P 6

★心の窓（教育相談班）…………… P 10

○4月の行事予定表…………… P 13

○所員随想「つれづれ」…………… P 13

★引っ越し

青少年育成センター指導員 遠藤 美代志

平成27年3月号

柏崎市立教育センター 柏崎市青少年育成センター

## 学校支援地域本部事業に思う事

柏崎市教育委員会

委員 増田 恵子



昨年の春より「ともに歩む“地域の学校”」の取り組みの一つとして、柏崎市内の全校区で地域コーディネーターの皆さんのお力をお借りして、地域と小中学校をいろんな角度から結ぶ活動が始まりました。私自身、第一中学校区で取り組まれていた活動がこの事業である事を知り素晴らしいなと思っておりました。この制度がより多くの学校で活用される事はとても興味深く、それぞれの地域が持つ特性を生かした学校支援になるのではと期待しております。

今年1月に鏡が沖中学校区の地域コーディネーターの斎藤さんから、中学校の外部講師のお願いがありました。1年生を対象にした「プロに学ぶ」とタイトルで多くの講師を探しているの、お願いできますかと言われました。私も主人も授業の当日は長岡で会議があるのですが、どちらかが講師になろうと思い引き受ける事にしました。ふたりで話しあった結果、私は中学校へは時々お邪魔させていただき生徒の様子を見させて頂く機会は多くあるので、主人に講師をお願いする事になりました。

講師を引き受けてから、主人なりに生徒に伝えるべき事をいろいろ考えている様子が見えました。授業の準備の為、何度か中学校にお邪魔したり、担当の先生と打合せをしたり手さぐりの体験だったようです。

当日は主人を含めた8名の外部講師が集まり、中学生に職業に関する授業をされました。「普段うちのK太（長男）を見ているせいか、今の中学生は将来の事を考え、しっかりしていて感心するよ。」と、主人は授業の様子他に感じた事を、私を含めた社員さんに報告しました。社員さんも、学校支援事業の取り組みや実際の生徒や学校の様子を聞く事で、より身近な学校、地域の学校という意識が芽生えるようです。

その後、地域コーディネーターの斎藤さんとお話する機会がありました。色々と課題点もあるそうで、大変な役割だと感じました。ですが、地域に住む人や経営を営む人が、学校支援事業に関わる事で、改めて自分自身の気づきや成長に繋がる機会になるのだと思います。これからも、この事業をとおして、地域と学校が共に歩んでいける事を望みます。

## ■H26年度研修講座を振り返って

187 講座、4,020 人の教職員等のみなさんから利用していただきました。講座の概要と皆さんからいただいた建設的な意見を集約してみました。◇＝参加者の振り返り文より抜粋。

### 授業づくり講座

◆筑波大学附属小学校 山本良和先生（算数）、白石範孝先生（国語）、佐々木昭弘先生（理科）をはじめ、文部科学省 田村学教科調査官（アクティブラーニング）、岡山大学 佐藤暁准教授（どの子どもねらいを達成する授業づくり）、福島大学 佐藤佐敏准教授（国語教育）などの講師の方々をはじめ、市内の先生方から授業公開をしていただきました。

◇「教材のもつ価値、この教材ではどんな力を身に付けさせることができるのか、を明確にもつことで、教師は自信をもてることがわかりました」「『学び』だけでなく『育ち』も大事であり、4月から授業者がどんな風に子どもを育ててきたかについてもきちんと評価すべきと思いました」「ねらいを共有し、『提言』という形で次に生かす協議会は、子どもの力をつけるのにとっても有効になることがわかりました」

### 特別支援教育

◆年間 15 講座を開設、特別支援学級経営だけでなく、発達の特性に応じた授業づくり等にかかわる研修を行いました。

◇「特性のある子だけでなく、どの子にも分かりやすい授業づくりをしていくことが重要」「講師の先生や参加者と会話することで今必要な支援がみえてきました」



### 柏崎の文化や歴史

◆芸術院賞受賞 原益男氏などを講師にお招きし、6 講座を開設、柏崎の文化への理解を深めました。

◇「子どもにとって、今住んでいるところがふるさとであり学びの舞台。もっと地域を知る必要があると思いました」「郷土に愛着と誇りをもつ子どもを育てることの重要性を感じました」



### 校務の情報化

◆ニーズに対応した 42 講座を開設しました。

◇「今ある教材との融合ができるかという視点で ICT の活用を深めていきたいです」「さまざまなプロジェクト機能は、子どもの考えを拡大し、焦点化していくために有効です」



### ICT 機器 デジタル教科書の活用

◆小中教科別に 13 講座を開設、デジタルの良さを最大限に生かした活用場面を吟味、開発しました。

◇「視覚化共有化焦点化ができるこんな教材をもっと活用しなければ、と強く感じました」「模擬授業をすることで、子どもの立場で使い方を研修できました」



### 科学技術教育

◆28 講座を開設、未来の柏崎を担う子どもたちに必要な、地域の自然への興味関心や科学的な思考力の育成に努めました。

◇「授業で悩んでいたポイントを教えていただき自信をもって子どもの前に立てます」「理科は子どもと体験を共有できるすばらしい教科です。苦手意識をもたずに頑張ります」





## ■ 平成26年度 研修講座の総括 「教育センター運営委員会」より

- ・教師の思いや願いを重視する「授業づくり講座」を設定、その中で教える場、考えさせる場などの区別を明確にしながら具体的な単元計画を作成し、授業公開、模擬授業を行いました。
- ・次期学習指導要領も視野に入れた実践紹介、各種団体等、地域の教育資源を活用した講座、デジタル教科書等 ICT 機器活用促進につながる講座等、今日的な課題を踏まえ現場の教職員の資質・指導力向上の視点から全教科・領域に対応させました。
- ・「ともに歩む地域の学校づくり」の推進に向け、地域住民や保護者が一緒に参加できる講座を設定し、地域の方々が当事者意識もって子どもを育てていく風土の醸成を進めました。
- ・校務支援システム「スクールオフィス」の利用定着に向け、引き続き関連の講座を設定し、各校における運用を支援しました。



模擬授業で課題の是非について検討

## ■ 平成27年度の3つの方針

### 基礎学力の定着、新たな不登校を生まない取組について

- 道徳教育、特別支援教育、人権教育・同和教育などの一層の充実を図り、各校の創意ある実践に結つくよう以下のように工夫していきます。
- ・次期学習指導要領等を踏まえ、各教科・領域で自立的協働的学び（アクティブラーニング）が実現できるように、具体的な指導プランを作成できる力を育成する講座を設定します。
- ・幼保、小、中の一層の円滑な接続を視野に入れる。幼稚園・保育園職員向けの講座を設定します。
- ・参加型体験型研修会…講義形式のみではなく、実際に体験をしたり、グループワークをしたり、参加者の主体的な研修や交流を工夫します。
- ・授業づくり講座やデジタル教科書活用講座等では模擬授業だけでなく、実際の授業と関連付け、事前の指導案検討や事後の全員参加・提案型協議会に取り組みます。その際、当該校の校内研修力を高める機能も含むようにします。
- ・連携共催型研修会…学校教育研究会、各種団体など、他の組織との連携により実施することで、各種団体の主体性を大事にします。
- ・特色ある講師陣…県内外から実績豊富な専門講師を招き、質の高い研修会を実施します。



校長先生も加わり対等な立場での協議会

### ともに歩む地域の学校づくりの推進にかかわって

- ・「ともに歩む地域の学校づくり」が柏崎市内でさらに大きな流れになっていくよう、講座内容を工夫していきます。また、教育による柏崎の様々な領域の活性化にも寄与できる取組も視野に入れていきます。
- ・柏崎の教育を語る会は平成 28 年 2 月 20 日（土）、アルフォーレで開催予定です。そこでは、平成 27 年度に引き続き、市内各中学校での「ともに歩む地域の学校づくり」の推進の様子と、子ども達の自立心にかかわる生き方としての「メディア機器にかかわる子どもたちの思い」を、一年間の経過をたどりながら取り上げます。様々な団体が、同じような目的と気持ちのもとで柏崎の未来を担う子どもたちを育てていこうとしている流れをより一層、強めていきたいと思ひます。



「子どもを育てる」という目的を共有

### 子ども達にふるさと柏崎を愛し誇りに思う気持ちを育て、郷土の発展に寄与する人材育成について

柏崎の歴史や文化、魅力を、柏崎在住の文化人や文化、観光施設の方々から学ぶことで、柏崎の魅力に先生方が触れ、柏崎の未来を活性化する人材育成やネットワークの構築を図るようになります。



ふるさと柏崎の発展に寄与する子どもに

## ■ 柏崎教育情報支援システム/コンテンツサーバ情報

### 資料を登録しました

#### ◆コンテンツサーバ(学校教育研究会実践記録集)

| 登録日  | 資料名                   |
|------|-----------------------|
| 2/23 | 情報教育研究部 平成 26 年度実践記録集 |
| 2/23 | 生徒指導研究部 平成 26 年度実践報告  |

#### ◆コンテンツサーバ(ポリシー/サポート関連)

| 登録日  | 資料名                                                       |
|------|-----------------------------------------------------------|
| 3/12 | H26 教職員用情報セキュリティチェックシート.doc<br>H26 学校用情報セキュリティチェックシート.doc |
| 3/16 | 離任時の校務 PC データクリアチェックシート.pdf<br>離任時の校務 PC データクリア手順.pdf     |

#### ◆コンテンツサーバ(教育委員会資料)

| 登録日 | 資料名                    |
|-----|------------------------|
| 3/4 | ALT News Letter 第 37 号 |

## ■ 情報関連講習会のご案内

### 4 月に実施されるスクールオフィス関連講習会

#### ◆H27.4.3(金) スクールオフィス新任者講習(管理者向け)

市外からの転入または新任の管理者向けに、スクールオフィスの概要と、年度のスタートにあたって最低限必要な業務について学習します。

#### ◆H27.4.3(金) スクールオフィス新任者講習(養護教諭向け)

市外からの転入または新任の養護教諭向けに、スクールオフィスと、保健管理システムの概要と、年度のスタートにあたって最低限必要な業務について学習します。

#### ◆H27.4.9(木) スクールオフィス新任者講習(学籍担当者向け)

市外からの転入または新任の学籍担当者向けに、スクールオフィスの概要と、日々の健康観察の入力手順と保健管理の健康観察マスタとの関連性、出席簿の作成手順について学習します。

#### ◆H27.4.10(金) スクールオフィス新任者講習(事務職員向け)

市外からの転入または新任の事務職員向けに、スクールオフィスの概要と、グループウェアおよび文書管理サブシステムの使い方について学習します。

## ■ セキュリティ情報

### セキュリティホール情報(Windows)

マイクロソフトより、3月 11 日付で3月の定期更新として、Windows などの重要な更新が公開されました。最大深刻度「緊急」が5件、「重要」が9件です。まだ Update が済んでいないようでしたら、至急 Windows Update などを実施していただくようお願いします。

## ■ スクールオフィス、校務 PC などのに関する情報

### ■ ゲーム機とネット機器に関するアンケートの結果を活用してください

「ゲーム機とネット機器に関するアンケート」へのご協力、ありがとうございました。柏崎の教育を語る会に間に合うように集計を進め、結果は各校に配布済みですので、ぜひデータを活用してください。

以下のようなデータを配布してあります。

#### ■ 市全体の集計結果 (Excel ブック)

学年別の集計結果もわかるようにしてあります。全体の傾向と、自校の結果との比較に活用していただくといでしょう。学校名を除く全データを持っていますので、様々な角度から分析していただくこともできます。

#### ■ 各学校の集計結果 (Excel ブック)

学年別の集計結果もわかるようにしてあります。各学校の全データを持っていますので、様々な角度から分析していただくこともできます。

#### ■ 回答用紙のスキャンデータ (PDF)

回答用紙をスキャンしたデータを、解像度を調整して 1 つの PDF ファイルにまとめたものです。自由記述の欄は集計等していませんので、心配なことや困っていること、子どもたちが何に夢中になっているかを知る資料として活用していただけたと思います。

#### ■ 集計シートの利用方法 (Word 文書)

市全体や各学校の集計結果の Excel ブックの利用方法の説明です。条件を変更するだけで、特定の条件下の集計を簡単に行えるようにしてありますので、この資料を参考にして分析してみてください。なお、このようなアンケート集計の方法については、毎年 Excel 活用 3 の講座で紹介しています。

担当者のつぶやき...

スキャナを活用した大規模なアンケートは初の試みでしたが、認識率が思いのほか悪く、集計に大変苦勞してしまいました。回答用紙の設計など、反省点も少なくありませんので、次回はきっと、たぶん、ぜったい、もう少しうまくいくと信じています。



### ■ 転出時に必要な手続きを確認してください

校務 PC を割り当てられていた教職員が転出する際には、校務 PC を次の利用者にスムーズに引き継ぐために、自分でインストールしたアプリケーションのアンインストール、変更した設定の復元、保存したデータの削除をお願いしています。必要な手続きを確認するチェックシートと、具体的な手順を説明した資料を用意してありますので、確認の上、適切に処理してください。



# プロジェクト K

柏崎刈羽地区科学技術教育センターだより

## 研修会・事業の様子

○要請研修 第二中学校 3年 放射線教育 2月26日実施  
比角小学校 6年 放射線教育 2月27日・3月6日実施  
協力 舟生 武司 様 ((株) e-サイエンス コミュニケーション)

### ◇内 容

文科省が示した放射線の副読本の内容をふまえ、今、子供たちに伝えたいことを重点においた放射線授業を行いました。2時間扱いで、1時間目は放射線の特徴とその利用および自然放射線の観察、2時間目は放射線の危険性と、万が一原発事故などが発生して大量の放射線・放射性物質が出てしまった時の対処法を学びました。この授業を通して正しい知識を学び続ける大切さを感じ、放射線の便利な面・危険な面の両面を知り、現在の日本や生活を一人一人が考える機会となればと願っています。



自然放射線の飛跡の観察(第二中学校)



ベータちゃんで調べてみました(比角小学校)

○要請研修 第一中学校 3年 放射線教育 2月19日実施

### ◇内 容

授業の主体は担任の先生が行い、センター職員は実験準備及び補助という形で参加しました。自然放射線を観察できる霧箱は、実験そのものは簡単ですが準備に時間がかかり、実験を成功させるのにちょっとしたコツが必要です。その手間をセンター職員が代行するスタイルです。放射線の授業に関わらず、実験で手が足りないという場面が想定される場合には遠慮なく声をかけてください。

こんな理センの利用の仕方はいかがですか？



放射線の測定をする生徒たち

○要請研修 鯨波小学校 3, 4 年生 「ものの温まり方」  
「ものの体積と温度」 3 月 10 日実施

◇内 容

学習したことの総まとめに、子供たちがわくわくするような活動をしてほしいということで呼びいただきました。クイズをしながら今までの学習の振り返りをしたり、体育館で簡単熱気球を飛ばして遊んだりしました。



簡単熱気球を飛ばそう



あたたかいお湯は上に上がる～実験中

**新年度の授業準備は進んでいますか？**

○薬品点検、理科準備室の整理整頓を！

・薬品点検を行きましょう。

年度当初の理科主任会でも、年 3 回の薬品点検をお願いしています。理科準備室の整理と年度初めの薬品点検を行い、保有薬品量を把握しましょう。

・ペットボトル等での薬品の保管は極力避けましょう。

ペットボトル等での薬品の保管は極力避けましょう。やむをえない場合は、容器に内容物が何であるのか明記しましょう。食塩や砂糖など、食品をそのまま実験で使う場合には、誤飲誤食を防ぐため、容器を移し変えるか、実験用であることを明記する必要があります。

・実験器具の点検をしましょう。

実験器具は次に使うことを考え、きれいに洗浄して、使いやすく整頓しましょう。通常の洗浄では、集気ビンなどに付着した白い汚れや、染色液による汚れはなかなか落ちません。理科主任の先生を中心に、作業日を決めて計画的に実施しましょう。

※器具の取扱い、薬品の管理などについて、ご不明な点があればいつでもお問い合わせください。

○年間の野外観察等の予定を検討しましょう

年間を見通して地層観察会や星空観察会などの日程を検討し、年間計画に予定を入れておきましょう。プラネタリウム授業、放射線教育も同様です。要請研修を希望される場合には、早めにご連絡ください。

～小学校の先生方へ～

早いうちに用意する必要のあるものをあげてみました。チェックして見直してみましょう。

< 3 年生 >

○キャベツ苗

モンシロチョウに卵を産ませます。早めに苗を入手しておきます。

○ヒマワリ、ホウセンカの種

種まきの時は、水につけるなどして発芽率を高めましょう。

○棒温度計、虫めがね、遮光ガラス、方位磁針

壊れているものがないか確認し、数を補充しておきます。方位磁針は、南北が反対になっているものを直しておくことも必要です。



### <4年生>

- ヘチマ、ダイズの種                      ヘチマは発芽率が良くない場合があるので、予備を多めに用意。
- 温度計、百葉箱（記録温度計）

### <5年生>

- インゲン豆、ヘチマ、キュウリの種  
インゲン豆はつるなしのものを準備します。ヘチマ、キュウリは7月の単元ですが早めに育てておきます。
- メダカ、水草  
メダカは飼育用具が必要です。特に飼育水槽にはメダカを入れる数日前から水を循環させておくようにしましょう。
- ヨウ素液  
褐色のビンに入れ、冷暗所で保管しておきます。

### <6年生>

- 種イモ（ジャガイモ）                      ホームセンターや種苗店で売っているものを使います。  
(遅くなると売り切れてしまうことも…)
- ロウソク、マッチ、線香
- 燃焼さじ
- 集気ビン（底あり、底なし）              白い汚れは薄めた塩酸で洗うときれいになります。燃焼実験の時、フタはガラス製のものは使えません。（無い場合は、木片とアルミ箔で自作しておきます）。
- 石灰水                                          専用の容器を決めて、作り置きしておく便利です。
- 実験用気体ボンベ（酸素、二酸化炭素、窒素）×班の数+2～3本
- 気体検知管                                      酸素、二酸化炭素用を予備も含めて、少し多めに準備しておきます。
- エタノール                                      毒性のあるメタノールは児童には使用させないでください。

## 科学研究おうえんプロジェクトのお知らせ

今年から新しく企画した「科学研究おうえんプロジェクト」は好評につき、来年度も実施します。内容は以下の通りです。開催日ごとに案内のポスター及びチラシを各学校に配布する予定です。対象は児童生徒とその保護者ですが、先生方の参加也大歓迎です。お待ちしております。また、科学部・生物部のある中学校は部活の活動としての参加も歓迎します。（多少の変更の可能性あり）

#### ・「春の植物観察会」・

- 日 時      4月29日(昭和の日)    9:00～12:00
- 場 所      教育センター周辺
- 内 容      植物観察・採集・標本作り



#### ・「海のいきもの観察会」・

- 日 時      6月7日(日)    9:00～12:00
- 場 所      番神海岸、博物館
- 内 容      磯の生物観察・採集・標本作り



#### ・「昆虫観察会」・

- 日 時      7月12日(日)    9:00～12:00
- 場 所      教育センター周辺
- 内 容      昆虫観察・採集・標本作り

夏休みの科学研究は  
これでばっちり!



・「参考作品展」・

- 日 時 8月12日(水)～23日(日) 10:00～17:00 (最終日は16:00まで)  
 ○場 所 ソフィアセンター  
 ○内 容 参考となる生物標本の展示 (昨年度科学作品展入賞作品の一部展示)

・「名前調べ会」(標本作製相談会)・

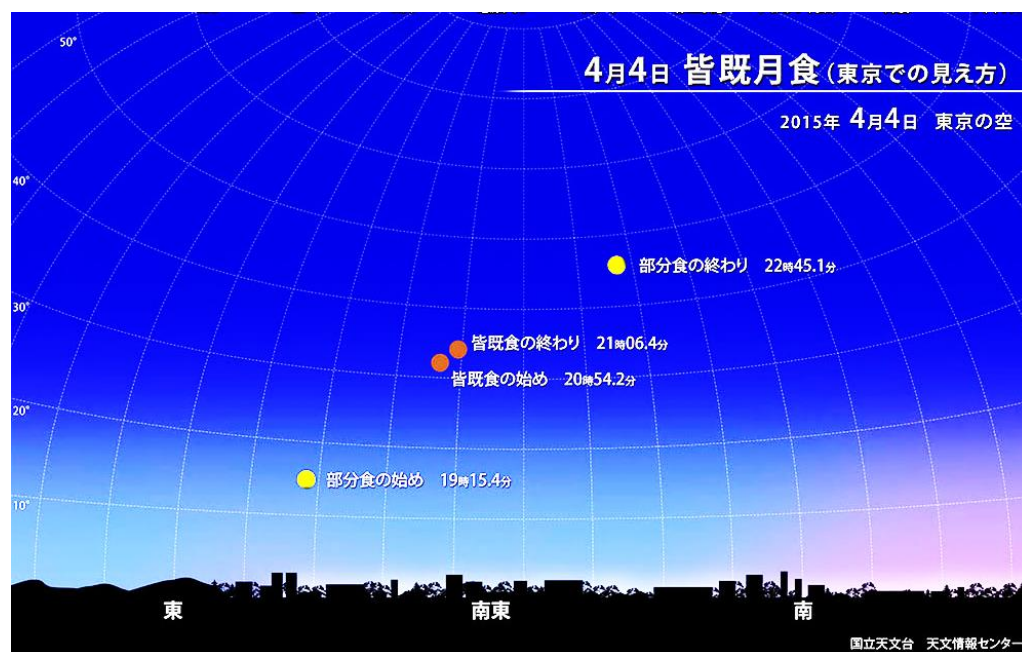
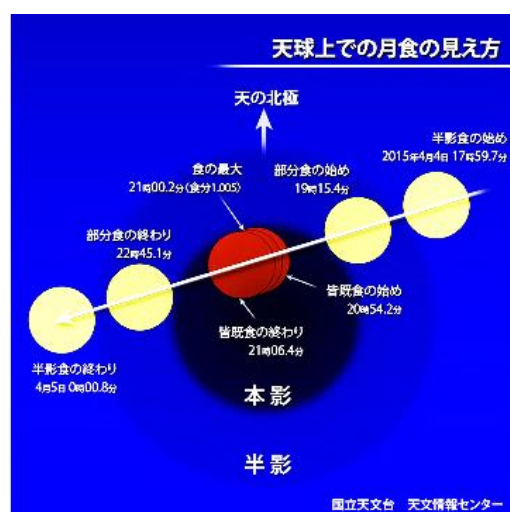
- 日 時 8月23日(日) 10:00～15:30  
 ○場 所 ソフィアセンター  
 ○内 容 生物標本の名前の同定

## 4月4日は皆既月食

昨秋 10 月 8 日の皆既月食は好天に恵まれ、観察した方も多かったことと思います。

今回も先回と似たような見え方で楽しめますが、今回は満月が地球の影の北端を通り過ぎるため皆既の時間が 12 分と短くなります。午後 7 時 15 分から欠け始め、午後 10 時 45 分に欠け終わります。肉眼でも十分観察できますが、双眼鏡や望遠鏡を覗くとまた違った姿が楽しめます。

ちなみに次に日本で月食がみられるのは部分月食なら 2017 年 8 月 8 日、皆既月食なら 2018 年 1 月 31 日です。天候なども含めて考えると、先回・今回と続けて皆既月食を見られるというのは幸運なことかもしれません。



< 国立天文台 HP より >

※図は東京での見え方ですが、新潟県でもほぼ同じような見え方であると考えて差し支えないそうです。

## 心の窓

No.187

〒945-1355

柏崎市大字軽井川4803-2

TEL 0257(23)4591 (代表)

FAX 0257(23)4610

E-mail soudan@kenet.ed.jp

## 教育相談班 今年度をふりかえって

## 《カウンセリングルーム》

H26年度のカウンセリングルーム来室相談は、1月末で相談件数653件、相談人数182人となっており、昨年同時期と比較して件数で10%の増加、人数で8%の減少でした。

相談内容の内訳では、「不登校」に関する相談人数が最も多く、次いで、「発達障害（通常学級）」となっていて、昨年度とほぼ同様の種別件数の傾向です。

相談事例の傾向としては、発達障害特性などの躰けづらさや育てづらさを持った子どもとの接し方や関わり方に悩む保護者からの相談が多くなっています。

また、相談員が学校訪問をして授業観察の後で教職員へのコンサルテーションに応じたり、関係機関によるケース会議や支援会議に出席したりする機会も増えています。従来の教育相談の手法のみならず、ケースワークやソーシャルワークの手法が必要不可欠になってきています。

## (1) 年代別面接相談件数【( )内は新規人数】

|      | 幼 児      | 小学生         | 中学生         | 高校生      | 教員・一般    | 合 計          |
|------|----------|-------------|-------------|----------|----------|--------------|
| 面接件数 | 1<br>(1) | 316<br>(97) | 331<br>(79) | 1<br>(1) | 4<br>(4) | 653<br>(182) |

## (2) 内容別面接相談件数【( )内は新規人数】

|      | 就学<br>相談 | 通常学級<br>発達障害 | 特支学級<br>発達障害 | 不登校         | いじめ      | 集団<br>不適応  | 心身不調<br>精神障害 | 非行        | 親子関係<br>の問題 | その他      | 合計           |
|------|----------|--------------|--------------|-------------|----------|------------|--------------|-----------|-------------|----------|--------------|
| 面接件数 | 2<br>(2) | 155<br>(60)  | 98<br>(32)   | 311<br>(60) | 3<br>(2) | 51<br>(11) | 7<br>(5)     | 10<br>(5) | 11<br>(3)   | 5<br>(2) | 653<br>(182) |

## (3) 発達障害児のソーシャルスキルトレーニング (SST) 「いろいろ体験グループ」実施状況

|                      | 前 期                             |                                  |                                  |                                | 後 期                                 |                                     |                                     |                                  | 計<br>(延べ)    |
|----------------------|---------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|--------------------------------|-------------------------------------|-------------------------------------|-------------------------------------|----------------------------------|--------------|
|                      | 第1回                             | 第2回                              | 第3回                              | 第4回                            | 第5回                                 | 第6回                                 | 第7回                                 | 第8回                              |              |
| 小学生<br>グループ<br>(実施日) | 12人<br>(5/2)<br>(5/9)<br>(5/16) | 12人<br>(6/6)<br>(6/13)<br>(6/20) | 12人<br>(7/4)<br>(7/11)<br>(7/18) | 9人<br>(8/1)<br>(8/8)<br>(8/15) | 12人<br>(10/3)<br>(10/10)<br>(10/17) | 14人<br>(11/7)<br>(11/14)<br>(11/21) | 10人<br>(12/7)<br>(12/14)<br>(12/21) | 13人<br>(1/9)<br>(1/16)<br>(1/23) | 94人<br>/24回  |
| 中学生<br>グループ<br>(実施日) | 19人<br>(5/22)<br>(5/23)         | 20人<br>(6/26)<br>(6/27)          | 17人<br>(7/24)<br>(7/35)          | 17人<br>(8/21)<br>(8/22)        | 22人<br>(10/25)<br>(10/26)           | 22人<br>(11/27)<br>(11/28)           | 20人<br>(12/25)<br>(12/26)           | 22人<br>(1/29)<br>(1/30)          | 159人<br>/16回 |

(文責 教育相談係長 小林 東)



## 《ふれあいルーム》

平成 26 年度は、6 名の通級生でスタートしました。年度途中に通級生が増え、小学生 1 名と中学生 12 名となりました。その中でも中学 3 年生が 8 名で全体の 6 割以上を占めました。2 月 27 日には、中学 3 年生最終通級日ということで、中学 2 年生以下で知恵を出し合い、楽しい三送会を開いて、8 名の中学 3 年生を見送りました。

ふれあいルームでは体験活動を重視し、いろいろな体験を通して人と接し、かかわる機会を増やすことで、協調性や信頼感を高めるとともに、少しずつ自信や存在感を取り戻しています。年度当初に通級していた通級生が、年度途中から学校復帰（部分復帰）できるようになり、2 月末現在では、9 割以上の子が学校復帰（部分復帰）することができました。再登校への意欲が低かった児童・生徒が、早めに当ルームに通級を開始することで、学校復帰につながっていることも多いため、学校訪問相談員やカウンセラーから通級への誘いを積極的に行ってもらっています。

通級生が毎日安定して通級していないにもかかわらず、少人数集団で気心が分かるため、目あての一つである「通級生同士のかかわり合い」が学年の枠を超えてスムーズに行われるようになってきています。課題としては、朝の会に間に合わない通級生が多いことです。朝すっきりと起きられないことや、バス等を利用して自力で通級できない通級生にとって、保護者の送迎が難しいことも一要因と考えられます。

また、中学生が多いことから、学習指導や進路指導などの難しさもあります。学校や学級担任との連携を深め、協力を得ながら通級生の支援を行うことが重要です。今後も、学校・保護者と同じ方向・方針で通級生への支援を図っていきたいと思います。

### 《 26 年度の体験活動から 》



（夢の森公園探検）



（新道への徒歩遠足）



（笹だんご作り）



（茶道教室）



（バス課外）



（妙高宿泊）



（陶芸教室）



（そば打ち）



（スケート教室）



（ヨガ教室）



（スキー教室）

（文責 ふれあいルーム指導員 神林 治男）

## 《学校訪問相談》

平成 26 年度学校訪問回数は 61 回でした（平成 27 年 3 月 18 日現在）。内訳は、定期学校訪問 32 回、要請学校訪問 19 回、同道訪問 10 回でした。この他、今年度は、「スクールサポート巡回相談」の専門委員の一員としての訪問等が、27 回ありました。

下の表は、定期訪問・要請訪問での相談内訳です。

（1）定期訪問での相談内容の内訳（小学校 20 校、中学校 12 校） ※（ ）内の数字は昨年度

| 相談<br>内容 | 特別支援<br>(通常学級在籍) | 不登校傾向<br>不登校 | 学級経営<br>学習指導 | 生徒指導    | 特別支援<br>(支援学級在籍) | その他     |
|----------|------------------|--------------|--------------|---------|------------------|---------|
| 件数       | 13 件 (27)        | 14 件 (14)    | 7 件 (5)      | 3 件 (1) | 3 件 (6)          | 1 件 (1) |
| 割合       | 32% (50)         | 35% (26)     | 17% (9)      | 7 % (2) | 11% (11)         | 2 % (2) |

（2）要請訪問での相談内容の内訳（要請回数 19 回：小学校 19 回、中学校 0 回）

| 相談<br>内容 | 通常学級における特別支援<br>学級経営・学習指導 | 不登校傾向<br>不登校      | 発達障害            | その他             |
|----------|---------------------------|-------------------|-----------------|-----------------|
| 割合       | 16 件 80% (36 件 72%)       | 2 件 10% (8 件 16%) | 0 件 0% (3 件 6%) | 2 件 10%(3 件 6%) |

上の表を見ますと定期訪問では、通常学級に在籍する特別支援を要する児童生徒に関することと不登校に関することの相談がほぼ同数になっています。しかし、小・中別に見てみますと、小学校では、通常学級に在籍する特別支援を要する児童生徒に関することが約 5 割、学級経営・学習指導に関することが 3 割弱で、合わせますと 8 割弱に及びます。一方中学校では、不登校に関することが 7 割弱を占めています。これにより小・中学校における課題の違いが分かります。

要請訪問においては、小学校の課題を受けた形で、通常学級における特別支援、学級経営・学習指導に関する内容に関わる訪問が主になっており、同一校に継続的に訪問をしたケースが複数校ありました。

このような状況の下、各学校では、チームとして児童生徒・保護者を支援する等、学校体制として取り組んでいる様子がうかがえ、学校の並々ならぬ努力が感じられます。今後も、課題に対し学校体制で取り組むとともに、全ての教職員が発達障害特性の理解を一層深め、ケースに合わせた具体的な策をもって児童生徒・保護者に対応することが大切と考えます。

学校訪問相談でも、関係機関と連携を図りながら、学校のニーズに合ったより具体的な相談・支援を行っていきたいと考えております。

（文責 学校訪問相談員 春川 稔）



### 教育相談班 4月の予定



#### 《ふれあいルーム》

- 7 日（火）平成 27 年度通級開始日
- 13 日（月）夢の森公園探検
- 14 日（火）ソフィアセンター
- 24 日（金）保護者会



| 4月の行事予定表                    |   |                                   |
|-----------------------------|---|-----------------------------------|
| 日                           | 曜 | 研修・行事・会議                          |
| 1                           | 水 |                                   |
| 2                           | 木 |                                   |
| 3                           | 金 | 情:S0転入・新任者向け講習13:00-養護教諭15:00-教頭  |
| 4                           | 土 |                                   |
| 5                           | 日 |                                   |
| 6                           | 月 | 相:班会議13:00-                       |
| 7                           | 火 | ふ:前期通級開始                          |
| 8                           | 水 | ふ:再入級確認～10日まで                     |
| 9                           | 木 | 情:S0転入・新任者向け講習 15:30学籍担当          |
| 10                          | 金 | 情:S0転入・新任者向け講習 事務職員               |
| 11                          | 土 |                                   |
| 12                          | 日 |                                   |
| 13                          | 月 |                                   |
| 14                          | 火 | ふ:ソフィアセンター                        |
| 15                          | 水 |                                   |
| 16                          | 木 |                                   |
| 17                          | 金 |                                   |
| 18                          | 土 |                                   |
| 19                          | 日 |                                   |
| 20                          | 月 |                                   |
| 21                          | 火 |                                   |
| 22                          | 水 |                                   |
| 23                          | 木 | 特別支援教育事業説明会                       |
| 24                          | 金 |                                   |
| 25                          | 土 |                                   |
| 26                          | 日 |                                   |
| 27                          | 月 |                                   |
| 28                          | 火 |                                   |
| 29                          | 水 | 昭和の日<br>科:科学研究おうえんプロジェクト-春の植物観察会- |
| 30                          | 木 |                                   |
|                             |   |                                   |
| 研:教育研究班 科:科学技術教育 相:教育相談班    |   |                                   |
| ふ:ふれあいルーム 情:情報教育研修 育:育成センター |   |                                   |



## 所 員 随 想

### 引っ越し

青少年育成センター指導員 遠藤美代志  
 いったい何回引っ越しをしたのだろうか？  
 数えてみると 10 回プラスα回。生まれ故郷の静岡県浜北市（現在は浜松市浜北区）で高校時代まで過ごし、大学のある静岡市内の学生アパートに4年間。卒業して一旦実家に帰り、そのあとはるばる新潟県柏崎市に引っ越し。1年間は、柏崎で暮らし、新採用となって高柳町に住む。隙間から外が見え、雨戸も中から押すと外に倒れるようなすごい教員住宅であったが、バス停からも近く、すぐ前は鯖石川、隣は診療所、四季折々の変化を十分に満喫できるなかなか快適な住宅であった。現在は、道路も除雪体制もよくなり高柳は通勤可能な地域になったが、40年前は自家用車もなく通勤できる範囲ではなかった。冬になれば、家族みんな離れ離れ。夫は、松代の教員住宅。一人目の娘が生まれたときは、育休制度が初めて実施された年であったので、その間は松代の教員住宅に引っ越し。その後、職場復帰し、松代から通った。しかし冬場は、松代～高柳は不通。またしても引っ越し。職場近くの床屋さんの2階に1歳にならない娘とお世話になった。

3年間のへき地勤務が終わり柏崎に戻った。

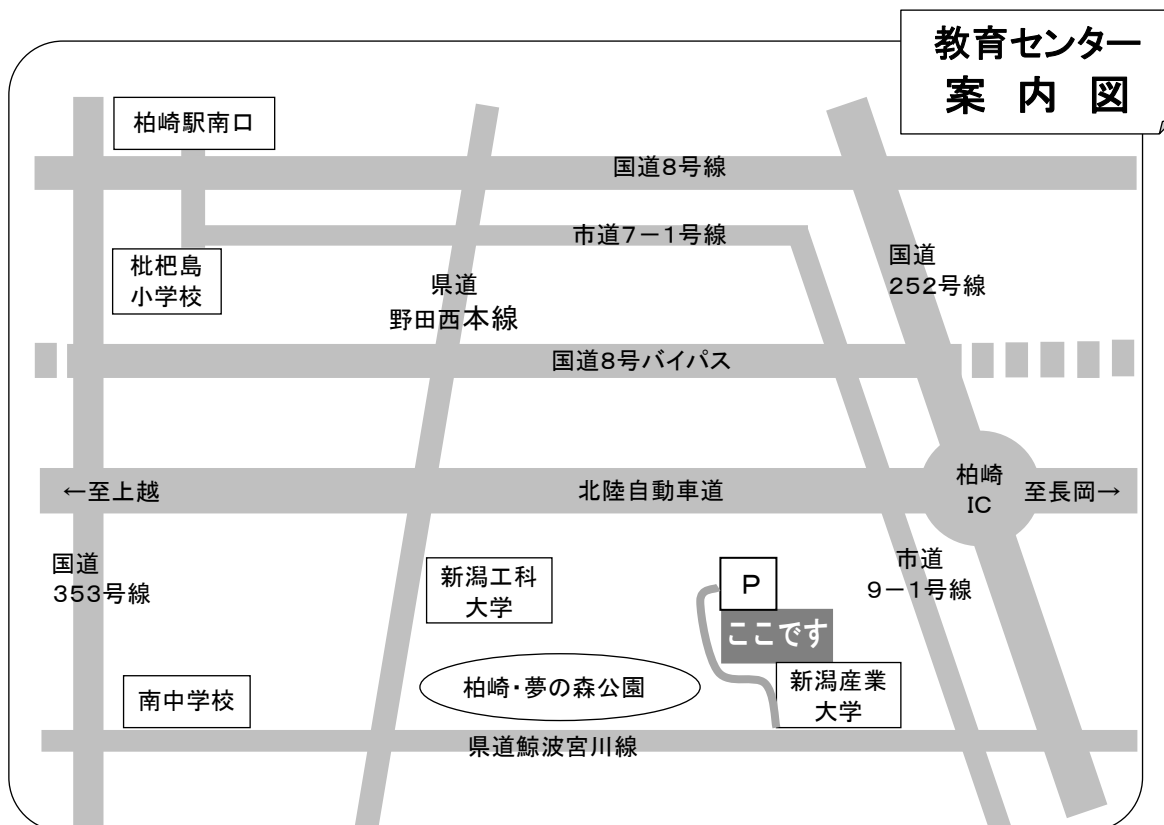
そして、次は神林村（現在は村上市）への転勤。単身赴任という気ままなアパート暮らし。神林村も岩船産コシヒカリが取れる豊かな田園地帯。近くには瀬波温泉、胎内温泉、関川村の温泉と車で 20 分も走れば、温泉に浸かり放題。柏崎との土帰月来生活のためそれほど温泉には通えなかったが、学校行事等の代休にはのんびり温泉三昧。

3年間の単身赴任生活を終えて、さて、やっとこれで引っ越さなくてもよいかと思った矢先の中越沖地震。自宅は全壊。自宅が復旧するまで、小国の教員住宅に2年間お世話になった。

今は、ようやく柏崎の地に落ち着いたが、災害などで引っ越しを余儀なくされることのないよう、この地での生活を楽しんでいたいものだ。







〒945-1355 柏崎市大字軽井川4803番地2（新潟産業大学キャンパス内）

※路線バスは、柏崎駅南口から新潟産業大学行きをご利用ください。

※車でお越しの方は、キャンパス内では徐行をお願いします。

イタリアの天文学者ガリレオ・ガリレイのたゆまぬ創造と検証の精神にちなみ、教育センター所報を「GALILEI」と名づけています。

インターネット版は、「柏崎市教育情報支援システム」を検索し、トップ画面右上の所報「GALILEI」をクリックすると閲覧できます。

教育センター代表TEL：0257-23-4591

代表FAX：0257-23-4610

E-mail：k-center@city.kashiwazaki.niigata.jp

教育研究班・情報教育TEL：0257-23-1168

E-mail：kec@kenet.ed.jp

教育研究班（科学技術教育）TEL：0257-20-0212

E-mail：kagaku@kenet.ed.jp

教育相談班（カウンセリングルーム）TEL：0257-32-3397

E-mail：soudan@kenet.ed.jp

教育相談班（電話相談）TEL：0257-22-4115

青少年育成センターTEL：0257-20-7601

E-mail：ikusei@city.kashiwazaki.niigata.jp

教育情報支援システム URL：http://kedu.kenet.ed.jp

平成27年3月発

=====